

医療用品 4 整形用品
高度管理医療機器 吸収性骨再生用材料 JMDN コード：70437204
骨補填材 オスフェリオン 60

再使用禁止

【警告】

本品を補填する際、補填材が軟部組織や関節内など骨組織以外の部分に入ってしまった場合は、これを可及的に除去すること。[局所熱感、発熱、疼痛、腫脹、膿等が発現する場合がある]

【禁忌・禁止】

・再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

本品は、β-リン酸三カルシウムからなる白色を呈した多孔質顆粒、ブロック状多孔体（ブロック体、ウェッジ体）及び円筒状多孔体である。

【使用目的又は効果】

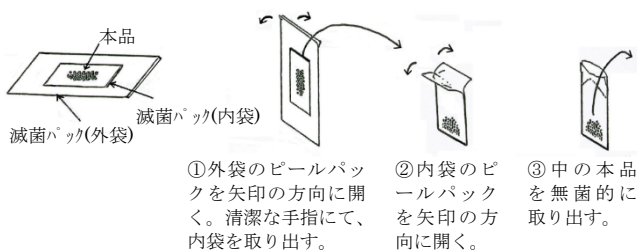
整形外科用骨補填材として使用するものであり、外傷や疾患で骨欠損部または空隙部があり骨移植を必要とする症例に対して、骨の代替物として使用する。脛骨高原骨折や臼蓋再建時などの例で周辺の皮質骨や固定材と共に充填部の支持性を補強するための圧入補填が必要な場合に使用する。

【使用方法等】

1. 術前確認 1-1. 局所の諸検査（血液検査、X線検査等）により、本品の適用の可否を検討する。

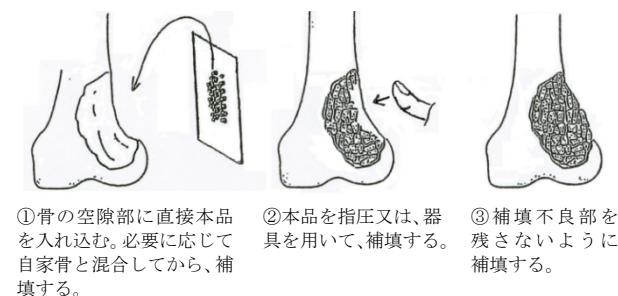
2. 開 梱 2-1. 外箱を開梱して、本品の入った滅菌パックを取り出す。
2-2. 使用の前に、外箱及び滅菌パックの記載内容、滅菌パックの破損の有無、本品の形状を確認する。

3. 滅菌パック開封



3-1. 滅菌パック外袋を、開封部より開封する。
3-2. 手術用手袋をした清潔な手指にて、滅菌パック内袋を取り出す。

4. 補 填



4-1. 患者の骨欠損部又は、空隙部に本品を指圧又は、器具を用いて補填する。
4-2. 補填部に応じて本品を原型のまま、またはブロック体/円筒体に対して、必要な大きさに切削あるいは破碎し、本品を単独で、または必要に応じて

自家骨と混合して骨欠損部に補填する。

- 4-3. 自家骨との混合は、骨欠損の大きさ、骨欠損による支持性の低下、補填部にかかる荷重の程度など、骨欠損、空隙部の性状を考慮し、その必要性を判断する。
- 4-4. 圧入補填が不要な場合、非荷重部の軽微な骨欠損や良性骨腫瘍の搔爬後などの骨補填には販売名：骨補填材 オスフェリオンを選択する。
- 4-5. 本品を補填する際は、空隙部又は骨欠損部に対して、気孔性状を損なわれないように（気孔が潰れないように）丁寧に状況を確認しながら補填する。
- 4-6. 本品が母床骨と直接接触し、血流を確保するように補填する。

5. 術後確認 5-1. 術後、定期的に本品の補填状況を X 線写真等で観察する。

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）
次の患者に対しては本品を使用する利点とその危険性を十分に考慮し、それぞれの専門の立場から適用の可否を判断すること。
- (1) ステロイド剤投与中の患者[薬剤投与経路によらず骨壊死、骨髄炎があらわれる可能性がある]
 - (2) 人工透析中の患者[慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常により骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (3) 悪性腫瘍の患者[治療剤により骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (4) コントロール不良の糖尿病患者[骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (5) 腎臓や消化器などカルシウム代謝系器官の異常や膠原病などの疑いのある患者[骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (6) 血液疾患、骨標的ホルモン代謝異常の患者[骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (7) 自己免疫疾患（膠原病、リウマチ等）、免疫不全症の患者[骨形成が遅延又は阻害される可能性がある]
 - (8) アレルギー体質の患者[アレルギー症状が発現する可能性がある]

2. 重要な基本的注意

- (1) 本品の使用に際しては、患者の全身症状、局所症状を十分に考慮して、決定すること。また、初期の骨形成量が販売名：骨補填材 オスフェリオンに比べて少ない点を十分に考慮すること。
- (2) 本品は販売名：骨補填材 オスフェリオンに比べ強さを改善しているが、本品単独で大きな荷重を受けることはできない。本品を、関節面直下など荷重が大きくかかる部位、骨皮質の欠損や菲薄化などにより支持性が低下している症例に用いる際は、自家骨とともに用いたり、内固定材あるいは外固定材と併用したり、免荷期間の延長などを行うこと。
- (3) 本品は販売名：骨補填材 オスフェリオンに比べ吸収・骨置換が遅いので、本品を使用した患者の使用状況及び回復の程度に応じて、術後観察期間の長さを取ること。
- (4) 骨折等、支持性がないあるいは低下している症例に使用する場合は、内固定材、外固定材等を用いて確実に固定が得られる症例にのみ本品を使用すること。
- (5) プレートなどの内固定材の抜去をする場合、医師が骨癒合などの患者の状況を鑑み抜去時期を判断する。
- (6) 補填時に圧をかける場合インパクターにて補填すること。
- (7) 本品は強い衝撃や無理な力がかかるとヒビが入ったり、欠けたりする恐れがある。本品を切削あるいは破碎等加工して使用する場合、また補填時に打ち込む場合は、十分に注意すること。
- (8) 本品と同一の成分である販売名：骨補填材 オスフェリオンに

において因果関係は不明だが当該品が消失した症例を確認している。骨腫瘍症例については病変組織を完全に搔爬・除去すること、炎症を伴う症例については炎症を鎮静化させる等、患者の症状に応じて、適切な処置を行い、【使用方法等】の4-6に

記載のとおり、本品が母床骨と直接接触し、血流を確保するように補填すること。

- (9)補填時には、崩れたり潰れることがないことに注意し、本品の治療効果を理解の上使用すること。本品が血管内に流入することがあれば肺塞栓を生じる可能性がある。

* (10)本品は **MR safe** であり、一般的な **MR** 検査による影響はない。
(自己認証による)

3. 相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関すること)

[併用注意](併用に注意すること)

医薬品・医療機器 の名称等	臨床症状 ・措置方法	機序 ・危険因子
骨セメントや形状 賦形型人工骨 (例:ペーストタイ プ人工骨など)	臨床症状:自家骨置換の 機能が低下するおそれ がある。 措置方法:本品が母床骨 と直接接触し、血流を 確保するように補填す ること。	本品の気孔連通性 が損なわれる

4. 不具合・有害事象

不具合・有害事象は以下のとおりである。これらの症状が発現した場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

1). その他の不具合・有害事象

(1)その他の不具合

消失

(2)その他の有害事象

- ①熱感、発熱、疼痛、腫脹、発赤、膨張、膿、痛み、血腫、滲出液、感染症状
- ②荷重部位への補填において術後、補填部の骨折
- ③病巣搔爬後の補填において発熱、発赤、膨張
- ④欠損部の補填において炎症(滑膜炎)

5. その他の注意

- (1)ウェッジ体は矯正骨切り術に使用すること。また、骨切り部位の大きさに合わせ適切な大きさの製品を選び使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、常温、常湿かつ直射日光の当たらない清潔な場所に保管すること。

2. 有効期間

有効期間は5年間〔自己認証による(当社データ)〕
外箱に表示された使用期限を確認すること。

【主要文献及び文献請求先】

1. 主要文献

- (1) 鶴狩善一 他：関東整形災害外科学会誌 22(5)、549-552 (1991)
- (2) 小澤正宏 他：Orthopaedic Ceramic Implants, vol.11、137-141(1991)
- (3) 成田哲也 他：東京膝関節学会誌 14、44-48(1993)
- (4) 小澤正宏 他：東日本整形災害外科学会誌 12、409-413(2000)
- (5) 森川茂 他：関東整形災害外科学会誌 32(6)、403-407(2001)
- (6) Akira Ogose 他：J Biomed Mater Res (Appl Biomater) 63、601-604(2002)

2. 文献請求先

**オスフェリオンバイオマテリアル株式会社
電話番号：03-5738-3950

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：

**オスフェリオンバイオマテリアル株式会社
電話番号：03-5738-3950